

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	代表より朝礼時に話あり各部署ごとに提示している。	今年度職員全体で理念について話し合い、事業所独自の理念を作り上げ、その理念を管理者、職員は共有しており日々の中でも話し合い実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	年間行事の中で地域の方がボランティアで来られ歌、踊りを観ている。	町内会への加入はないため、地域の一員としての活動はこれからである。近隣の方々と散歩の折などで気軽に挨拶を交わしたり、畑の作物のおすそ分けをいただいたりしているものの気軽に立ち寄ってもらう、遊びに来てもらうといった触れ合いの機会はまだまだ少ない様子が窺える。	共に暮らす地域住民の一員として町内会に加入し、地元の活動や役割を積極的に担っていく等、利用者が地域と繋がりながら暮らしていくことを支えていくための取り組みを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	外部研修に参加し認知症を理解するようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回定期的に開催しほたるの活動状況を報告し意見や情報を検討しサービス向上に活かしている。	町担当者、包括支援センター、各町内区長、民生委員をメンバーに2か月ごとに状況報告を行い、意見を伺っているが、事業所の取り組み内容や具体的な課題について積極的な話し合いには至っていない現状がある。また、会議内容についても全職員への周知がなされていない状況であった。	会議では事業所の取り組み状況についての報告と共に参加メンバーからも内容や課題について、質問、意見、要望を受け、双方向的な会議となるよう配慮し、職員への周知を図ると共に、今後のメンバー構成についても事業所内で話し合う機会を設け、事業所と近隣地域との交流促進を図っていかれることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に出席して活動状況や情報交換を行っている。	特に包括支援センター職員との積極的な連携が構築されており、折に触れ相談、助言、情報交換等気軽になされている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を実施し職員の方でも理解している。	定期的に研修会で学ぶ機会を設け職員の共有認識を図りながら、安全面に配慮し自由な暮らしを支えるようにしているが、認知症に対する理解は十分とは言えず、「身体拘束禁止の対象となる具体的な行為」の徹底理解は十分とは言えない様子が窺える。	職員全体が更に認知症高齢者に対する理解を深めるため、自事業所の具体的な事例を基に学ぶ機会をもち、なお一層「身体拘束の対象となる具体的な行為」について職員間での共有認識を図り、抑圧感のない暮らしの支援が期待される。
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会にて事業所内での虐待の防止に努めている。	事業所内研修で「高齢者虐待防止法」について学ぶ機会を設け、理解の浸透や遵守に向けた取り組みを行い、職員のストレスが蓄積されないよう管理者は職員の相談事にも応じる関係性が築かれている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	特に勉強会は設けていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に家族からの意見、要望を聞きそれを申し送りに検討しサービスに反映させている。	家族の面会時には何でも話しやすい雰囲気づくりに努め、意見や要望を伺ったり、また、利用者同士の会話にも耳を傾け、いただいた意見は朝のミーティング時や職員会議で協議し、事業所の運営に反映させている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	分からない事、困ったことはその都度対応したり、ミーティングにて話し合い対処している。	ミーティングや職員会議を利用し、希望を聴きだしたり、職員がやりがいをもてる仕事の方法などについて話し合い運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	年に1回個別面談を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	阿賀町で地域密着連絡協議会はあるが25年にしてその後してなく参加していない。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の方と1対1で話す機会をつくり話している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	困っていること、不安なことをお聞きし支援方法の話し合いをもっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所後2~3週間は様子を見てサービス計画を立てている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員も認知症を少しづつ理解し入所者と共にするという事に努めている。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	連絡を密にして家族と協力しながら本人を支えていくようにしている。	家族の面会時には本人の日頃の状態について細やかに報告や相談を行い、本人から要望があれば電話での対話の支援に努め、外泊の希望についても相談していく等、本人を支えていくための協力関係が築けるようになって来ている。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時は気兼ねなく話ができるように配慮している。	馴染みの友人、知人の面会での交流、また、古くから馴染んできた気安さのある美容院への継続的な交流が出来るよう働きかけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入り利用者が孤立しないように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された家族とも話をすることがあり相談にのることもあります。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	事前面接にて把握し入所後は本人や家族の話をするようにしている。	利用開始前に訪問し、本人、家族からこれまでの暮らしぶりや意向の把握に努め、日々の関わりの中でも問いかけながら確認するようにしている。思いや暮らし方の情報を職員間で共有し、本人本位の関わりに努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	職員には事前にアセスメントにて入所者のことを把握してもらうようにしている。	利用開始前に前利用事業者から情報収集すると共に、本人、家族と馴染みの関係を築きながら日々の中でこれまでの暮らし方の把握に努め、職員間で共有するよう努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録、ミーティングをし共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族と話をし意見、アイデアを反映して介護計画を作成している。	自宅訪問時や前事業者から得た情報を基に、本人、家族、関係者で話し合い、気づきや意見、要望を反映した介護計画を作成しているが、サービス提供状況についてのモニタリングやカンファレンスにまではなかなか至っていない現状も見受けられる。	サービスが介護計画に沿って実践されているか、その結果どうなったかの情報を共有し、日々の記録を根拠にカンファレンス、モニタリングを繰り返しながら介護計画の見直しに繋げていかれることを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録、業務日誌で情報を共有して実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	他事業所の管理者と会議を開き取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	まだしていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医に受診している。状態に応じ家族、病院に連絡を取り適切な医療が受けられるように支援している。	基本的には家族同行で本人、家族の希望するかかりつけ医となっているが、事情によっては職員が付き添い医師との状況確認が行われている。受診結果については家族へ報告する等、情報を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師はなし。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関に情報を提供し入院中は何回か病床伺いをしてその時看護師、相談員と相談している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当事業所では終末期は病院対応している。	現在事業所としての終末期を迎える体制は整っていないが、重度化した場合や医療面について、協力病院への受け入れ体制が整備されていることが家族の安心となっている。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な訓練は行っていないが緊急連絡網は徹底している。	急変や事故発生時に備え消防署の協力のもと、定期的に応急手当や救命法の研修や訓練を行い、全職員が対応出来るように努めており、緊急時対応マニュアルを整備し周知徹底も図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回は避難訓練を行っている。	昼夜を想定した避難訓練を行うと共に、消防署立会のもとの避難訓練、消火器の取り扱いについての訓練を定期的に行っているが、地域との協力体制や備蓄の備えは十分とは言えない現状がある。	火災や地震、水害等の発生時に備え、食料や飲料水、簡易トイレ、寒さをしのげるような物品準備の他、日頃から地域の協力が得られるような体制構築を図り、訓練に参加してもらう実践的な取り組みが期待される。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方にあった対応、声掛けを行っている。	本人の気持ちを大切にしており、援助が必要な時もさりげないケアを心がけ、人格を尊重し誇りやプライバシーを損ねることのないよう一人ひとりに合わせた言葉かけに配慮されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望が話しやすいように声掛けを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	まだ職員の介護技術は未熟だが一人ひとりのペースを大切に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月2回訪問床屋に来ていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブルを拭いていただいたり食器の片づけをお手伝いしていただいている。	敷地内で利用者が職員と共に収穫した野菜や、近隣からの頂き物を利用して馴染んできたメニューを中心に落ち着いた環境の中での食事を大切にしている。利用者は下膳やテーブル拭き、おしぼりたみなど機能に合わせて力を発揮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士と相談して栄養摂取できるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりにあったトイレ誘導、声掛けを行っている。	トイレでの排泄を基本にし、一人ひとりの排泄パターンの把握に努めると共に、利用者の様子からも察知し、さりげなくトイレ誘導がなされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	処方された下剤を服用してもらったり水分制限のない利用者には、水分を多く摂ってもらうようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	職員側で曜日を決めて入浴していただいている。	入浴は3施設共同の浴室となっており、決められた曜日の午後、自由な時間に入浴されている。また、菖蒲湯やゆず湯といった季節湯の用意をして、爽快感を味わってもらう工夫をしたり、入浴時は職員との大切な対話の時間となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時々状態にあわせ声掛けをして休んでいただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬カードを職員がいつでも見られるように周知し服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の好きな事、出来る事、出来ない事を把握しそのかたにあった楽しみが持てるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望にそった外出は出来ないが家族と相談して外泊したり、希望があれば買物に同行している。	個別の外出、外泊は家族の協力を得て、いつでも可能である。季節に合わせた花見や紅葉狩りには、どなたでもが参加できるように配慮している。また、天候の良い日には重度の方も園庭に出て外気に触れ、咲き誇る花々を眺め楽しんでもらっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金は自分で管理している人はしていますし、買物に同行した時は見守りをして支払っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望時ほたるの電話を使用している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	散歩にでた時花を摘んだのを飾ったり、ホールの温度に配慮したりして工夫している。	個々の作品や行事の写真、散歩の折に採取した野の花を飾ったりして季節感や生活感に配慮し、居心地良く過ごせるように工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳の間にホットカーペットをしき対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と相談しながら買って頂いている物もあるが、今まで使っていたものを持ってきて頂いている。	家族とも相談しながら、自宅で使い慣れた馴染みの物や写真等が持ち込まれ、その人らしい居心地の良さに配慮している。また、居室内の整理、整頓も利用者と相談しながら落ち着いて過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレマークは利用者にはわかりやすく日本語で書き、居室には名前をはり分かりやすいようにしている。		